



移住者インタビュー



井若 和久 (いわか かずひさ) さん

徳島大学人と地域共創センター学術研究員、徳島大学・美波町地域づくりセンター駐在員。2012年由岐に移住。事前復興まちづくり活動などに従事。



甲斐 梨花子 (かい りかこ) さん

地域プランナーとして、フリーランスで活動中。ライターやイラストレーター、まちづくり支援など幅広い分野で活躍中。2018年美波町に移住。

●移住のきっかけをお聞かせください。

《井若さん》

徳島大学に進学して、近い将来に徳島で南海地震が発生することを学びました。地元のためにもなると思い防災の研究を始め、由岐にも調査に來たりしていました。博士課程の時に東日本大震災が発生し、被災地を訪れる中で、復興に住民の意見が充分反映されなかったりして、地域から人がいなくなってしまう現実を目の当たりにしました。自分も地域の住民として事前復興まちづくりに携わりたいと思い、ご縁があった防災先進地の由岐に移住することに決めました。

※事前復興…災害が発生した際のことを想定し、被害を最小化につなげる都市計画やまちづくりを推進すること。

《甲斐さん》

世界中旅をしながら、その地域の魅力を伝えるライターの仕事をしました。ライターを通じて、日々の何気ない暮らしこそ面白いのに、旅人としての限定的な関わり方では限界があると感じ帰国しました。その地域に住んで、暮らしの中にある面白さを伝えられる仕事がしたいと思い、当時(株)あわえで募集していた「美波クリエイターズスクール」(※)に応募して、移住しました。

※地域の魅力を発信する人を育てるスクール事業

●美波町の魅力はどんなところでしょうか。

《井若さん》

由岐の魅力や災害後どのようなまちに復興したいか、自主防災会で住民の意見を聞いてまとめています。実家の徳島市内と比べても、由岐では特に「地域愛」「自然環境」「人間関係」が豊かで、また「子育て」にも良く、本当に素敵なまちです。



《甲斐さん》

面白い人たちがたくさんいることです。1人1人本当に自分の好きなことや得意なことを、とことん楽しんでいる人が多い。しかも1人複数。そんな美波町のあらゆる世代の背中を見て、私もコーヒーショップなど新しいチャレンジする力を貰っています。消費することではなく、新しいものを創り出すことが楽しくなってきた今、応援してくれる人がたくさんいるのも、この町を離れられない理由です。

●美波町のおすすめスポットを教えてください！

《井若さん》

東由岐に日本最古の津波碑といわれる「康暦碑(こうりやくひ)」があります。1361年に発生した正平南海地震津波の供養碑といわれています。2018年には現在の天皇陛下がご来訪になったこともある場所ですので、ぜひ一度訪れてみてください。

《甲斐さん》

自転車が趣味で、南阿波サンラインはよく走っています。下る時の、「このまま海に飛び込めるんじゃないか」と錯覚してしまうほどの景色が最高です！自然の景色は毎日変わるので飽きません。



NEWS!! 美波町地方創生企業パートナー、(株)あわえが令和3年度ふるさとづくり大賞 優秀賞を受賞

株式会社あわえから美波町の皆さまへ



株式会社あわえは、総務省主催の令和3年度ふるさとづくり大賞において、優秀賞(総務大臣表彰)を受賞いたしました。ふるさとづくり大賞は昭和58年度に始まり、「ふるさと」をより良くしようと頑張る団体や個人を表彰するものであり、昨今では地方創生の推進にも寄与するものと位置づけられています。全国で様々な団体様が地域づくりに奔走中、70に及ぶ推薦数の中から弊社の活動を高く評価いただいたこと本当にありがとうございます。弊社のこれまでの事業継続や今回の受賞も、皆さまの私どもへのご理解とご支援のおかげでございます。常にひとかたならぬご配慮とご高配を頂いておりますこと、この場を借りて、重ねて御礼申し上げます。この度の受賞は、美波町の皆さまと共創した成果に対する評価を、弊社が代表して頂いたものと思っております。この栄誉に恥じぬよう誇りを持ちつつ、現状に甘んじることなくさらなる高みを目指し、社員一同一丸となり精励し、美波町はもとより、全国の地方、そして日本の発展に汗して参ります。

にぎやかそ地方創生便りについて、この4月号で掲載を一旦休載させていただきます。これまでにぎやかそ地方創生便りをお読みいただき誠にありがとうございました。今後、日々頑張る人・団体・取り組みの情報については、表紙にて掲載させていただきます。

【お問い合わせ】 役場政策推進課 ☎ 77-3616

